

## 平成 17 年度第 2 回評議員会議事録

1. 日 時 平成 18 年 3 月 19 日 (日) 10:30~15:00

2. 場 所 岸記念体育会館 5 階会議室

3. 出席評議員 (順不同・敬称略):

(加盟団体) 北海道: 浜田賢、岩手: 榊頭治、宮城: 相澤孝司、秋田: 佐藤利秋 (委)、山形: 斎藤和久 (委)、福島: 佐藤利松 (委)、外洋北海道: 小澤貢一、外洋津軽: 木立正博、外洋いわき: 平崎正文 (委)、茨城: 根本茂喜 (委)、群馬: 中川淳、埼玉: 石井次男、千葉: 斉藤威、東京: 田中耕司、神奈川: 浜崎濠次郎 (委)、山梨: 羽田定造、新潟: 野崎喜一郎、長野: 横山真 (委)、静岡: 中嶋浩二郎、外洋東京湾: 福田義一 (委)、外洋三崎: 川久保史朗、外洋三浦: 藤田亨、外洋湘南: 浪川宏、外洋東関東: 横田光夫、外洋駿河湾: 山田良昭、愛知: 森信和、三重県: 横田昌訓、岐阜: 伊藤和典 (委)、外洋東海: 森岡稔夫 (委)、富山: 番匠茂、石川: 石倉喜八朗、福井: 高間博之 (委)、滋賀: 山田将人 (委)、京都: 岩崎勝、大阪: 岩崎洋一、兵庫: 川上宏、奈良: 安澤厚男、和歌山: 山本嘉一、外洋内海: 妹尾達樹、鳥取: 善波周、岡山: 馬場正彦、広島: 瀬尾潔 (委)、山口: 藤岡悍 (委)、外洋西内海: 金井寿雄 (委)、香川: 葛西和久、愛媛: 黒川重男、高知: 文野順夫、福岡: 岩瀬広志、佐賀: 松山和興 (委)、長崎: 最上修、熊本: 本田肇、鹿児島: 大迫哲弘 (委)、沖縄: 有銘兼一、外洋玄海: 冬至克也 (委)、外洋南九州: 剥岩政次 (特別加盟団体) 全学連: 杉山嘉尚、高体連: 澁谷有人、ジニア: 中根健二郎 (委)、実業団: 外尾竜一、自治体: 小宮三雄、ヨットクラブ: 中瀬昭、470: 五味克博、シホパ: 山近雅彦、レーザ: 山形和生 (委)、ウインドサーフィン: 千葉貴生、スイング: 澤村治男、FJ: 古屋勇人 (委)、OP: 国見悦朗 (委)、テザ: 本吉譲治、ドラゴン: 國井重人、49er: 高野学、J24: 久保田悟 (委)、近北水域ミッド: 高橋利明 (委)、ML大阪: 小林昇、東海ミッド: 坂倉純二 (委)、外洋四国: 瀬川洸城、湘南マリナ: 渡邊康夫、東海マリナ: 坂谷定生 (委)、瀬戸内海マリナ: 野田福美 (委)、学生外洋: 中里英一、財務: 市原恭夫 (委)、身障者: 大塚勝 (委)、外洋女性: 米田直子、ジャーナリスト: 森下嘉樹、設計: 高橋太郎 (委)

以上、出席 85 名 (内、委任状出席 30 名)

欠席評議員: (加盟団体) 青森: 平久保長蔵、栃木: 森谷茲充、外洋近北: 樋口誠、島根: 幸野孝治、徳島: 石井良直、大分: 後藤督、宮崎: 後藤眞宏 (特別加盟団体) シホス: 蛭子井貴 (委)、KYC: 小田泰義、関西ミッド: 植松由量、関東ミッド: 伊藤功一

以上、欠席 11 名

(その他出席者)

名誉会長: 秋田博正、会長: 山崎達光、副会長: 河野博文、専務理事: 昇隆夫、常務理事: 前田彰一、理事: 安藤淳、石橋國雄、伊藤宏、篠田陽史、外山昌一、名方俊介  
監事: 一條實昭、貝道和昭、高田尚之

顧問：松本富士也、米澤一 参与：中山明、鈴木保夫

委員会：川北ルール委員長、水谷普及委員長

アドバイザー：山田利光特別委員会委員、大阪北港ヨットクラブ：吉田敬一

以上、その他出席22名

#### 4. 議題事項

- 1) 平成17年度第2次補正予算(案)
- 2) 平成18年度事業計画(案)
- 3) 平成18年度予算(案)
- 4) 理事の交代について
- 5) その他

#### 5. 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員96名中、出席85名(内委任状30名)で、寄附行為第34条5項に基づく定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

寄附行為34条3項に基づき、議長の選出を行った。議長は浪川宏評議員に決定し、平成17年度第2回評議員会の開催を宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、野崎喜一郎、小林昇の両評議員が任命され、承認された。

(山崎会長挨拶)

山崎会長より、一連の外洋問題について、昨年シンガポールで開催されたISAF・ORC年次総会期間中にISAFケレット副会長、ISAFトルママルスト・オフショアコミティ委員長、ORCフィンチ会長、ORCCAJ福田会長、JSAF会長の5者で協議し、計測&プロモーション、レーティングシステムを検討するため、ボードメンバーを構成した。その後、JSAFとORCCAJとの合意書を作成し解決した。愛・地球博記念国際セーリングシリーズ(ISS)が全事業終了したこと、関係各位への謝辞があった。環境キャンペーンでは、協賛各社のご協力を得て、各種セーリング競技会場でエコフラッグ、キャンペーンステッカーなどを展開した。これはJOCからも評価された。連盟の慢性的な赤字体質を大きな問題として、JSAF健全財政にするため抜本的改革が必要と考えている旨、報告があった。また、本評議員会におきまして重要案件等の審議のほどお願いしたいとの挨拶があった。

## 議題 1 ) 平成 17 年度第 2 次補正予算 ( 案 ) について

安藤会計担当理事から資料に基づき、平成 17 年度第 2 次補正予算 ( 案 ) について説明があった。平成 17 年度予算は一部が予算と比べ大きく変わるところがあるため、2 次補正をする。

一般会計

( 収入の部 )

- 1 ) 賛助会費は現時点の実績を考慮して予算に対して 50% 減額の 600 万円とした。
- 2 ) 加盟団体負担金収入は 4 年会員の更新の年となり実績が予算を上回った為、400 万円の増額とした。
- 3 ) 補助金収入は国体の日体協からの補助金が確定した結果、150 万円の減額とした。
- 4 ) 寄付金収入は山崎会長と戸田副会長の叙勲パーティー収益と愛知万博関連の事業の収支差額を寄付金収入としたため、2,246,000 円を計上した。
- 5 ) 協賛金収入についても日建レンタコムからの協賛金収入に合わせて新たに 14,500,000 円を追加計上した。
- 6 ) 広告料収入は J sailing 発行経費のオリンピック関連分の経費 ( 300 万円 ) が第 1 次補正予算では計上されていなかったため、負担金収入として一般会計の収入として計上した。

( 支出の部 )

- 1 ) 事業費の雑費はポートショーに出展するための経費を 40 万円増額とした。
- 2 ) 管理費の業務委託費は、IT 委員会の会員登録に関する会員データを切り替えるためのチェックが予想以上に発生したために増額した。

なお、外洋統括委員会の予算は、計測委員会の会計上の問題が現時点では解決していないため、第 1 次補正予算の通りとしました。

問題点は、平成 17 年度は単年度で黒字となっているが、これは 17 年度に 4 年メンバーが大量 ( 約 833 人 ) に更新する年であったことが要因としてあげられます。他年度の 4 年メンバーの更新は平均約 200 人であることから、差引会員数 633 人の 18・19・20 年度の会費総額は約 830 万円になり、これを前受金として考えると約 830 万円の赤字である。

オリンピック特別会計

( 収入の部 )

- 1 ) 補助金全体では約 150 万円の減額となった。
- 2 ) 負担金収入は約 200 万円の減額となった。
- 3 ) 一般会計からの繰入金 ( J sailing の広告料の内、オリンピックに関係した広告料収入から事務局におけるオリンピック関係の事務の業務費用を差し引いた金額 ) を J sailing の発行費 ( 300 万円 ) を負担するために増額とした。( 収支では 120

万円の減額)

(支出の部)

- 1) 全体的には補助金収入が減った分、支出も減額したが予備費を約 360 万円増額した。
- 2) 収支では一次補正(案)と同額の時期繰越額を 1,383,386 円とした。  
免税募金会計は、寄付金収入が 3,235 万円の増額となった。  
愛知万博特別会計は、本年度寄付金収入がゼロとなり、繰越金を精算して本年度本年度で終了となるとの発言があった。

同意を得た。

## 議題 2) 平成 18 年度事業計画(案)について

昇専務理事から資料に基づき、平成 18 年度事業計画(案)について説明があった。平成 18 年度重点事業として、指定管理者制度の導入：全国の県連、外洋団体、クラブが本制度をよく理解し積極的に取り組むことにより、各県の活動拠点であるマリナー・ヨットハーバー等の経営権を獲得する。これにより従来の閉鎖的な運営から、セーラー本位のサービスを提供することにより拠点の活性化を図る。普及委員会事業の見直し(日本財団事業)：過去、長期間にわたり行われてきた事業の区分け(セーリング体験、ファミリーレース、教職員対象事業等)の見直しを行い、参加人員の多い事業に重点を置く。過去事業実施の少ない外洋団体も積極的に取り組むことを期待する。B&G 財団海洋センター支援事業(プールでヨット)：OP 協会協賛による 17 年度を初年度としてはじめた本事業の積極的な取り組みを実施する。17 年度は準備不足もあり、3ヶ所しか事業実施できなかったが、次年度より各県等と積極的に連携することにより 10ヶ所くらい実施したい。全日本選手権大会支援：17 年度同様に環境キャンペーンを積極的に展開することにより、多くの艇種別協会の活性化に寄与する。

ジュニア・ユースヨットクラブの活性化：国体少年男子、同女子種目に大分国体(平成 20 年)より中学 3 年生の参加を実現することにより、ジュニア・ユースヨットクラブの活性化を促進し、ジュニア中心の都道府県の活性化、エントリー増大を図る。見るセーリング：国体レース海面は平成 10 年神奈川大会より実施し、3 年前より定着した会場地より至近距離にレースコースを設定し、多くの観客に競技を観戦していただきセーリングファンの増大を図ることを実施している。今後は従来の競技者本位のセーリングに加え、国体以外のレースにおいてもセーリングファンの増大のため、身近なスポーツとして PR に努めたい。スポーツ拠点づくり推進事業：文部科学省スポーツ青少年局競技スポーツ課主導による表記事業(市町村と競技団体がタイアップし競技大会を同一場所で 10 年以上開催することにより、毎年 500 万円の助成金がある)を積極展開することにより、全国セーリング拠点及び加盟団体の活性化に寄与すると

の発言があった。

同意を得た。

### 議題 3) 平成 18 年度予算 (案) について

安藤会計担当理事から資料に基づき、平成 18 年度予算 (案) について説明があった。

一般会計 (収入の部)

- 1) 賛助会費については、今年度第一次補正予算を上回る 13,000,000 円としている。但し、17 年度収入見込みはこれを下回っており、一般会計の収支の健全化を図るためには、18 年度も更なる賛助会費の増額等の収入増を目指す必要がある。
- 2) 加盟団体負担金収入については、今年度が 4 年メンバー更新集中年度であったことから、相当分が減少する見込みであるため、17 年度より減額とした。

(支出の部)

- 1) 収入の部の加盟団体負担金の減少に伴い、団体交付金についても、相当額を減じた。
- 2) 総務関連の印刷製本費、通信運搬費等については、18 年度収入減を見込み、経費節減の観点から、今年度より減じた。
- 3) 上記対策を講じても、収支バランスが困難なため、予備費を 5,500,000 円確保した上で、次期繰越差額を収支ゼロとした。従来は、次期繰越差額が黒字となっており、収支ゼロとなるのは、収支面での悪化を示しており、今後の一般会計運営上、何らかの対策が必要である。
- 4) なお、外洋統括委員会の予算は、従来とおり艇登録料収入で計測事業以外を賄うことにしているが、計測事業については、まだ事業計画を組めない状況であるので、収入、支出ともゼロとした。(事業計画が決まっても、収支はゼロと考えられる)

オリンピック特別会計については、特に懸念する事項はないと考えられる。

免税募金特別会計については、収入見通しを踏まえ、17 年度一次補正予算に対して、約 2,000 万円の減額とした。次期繰越収支差額は 17 年度並みを確保したとの発言があった。

同意を得た。

### 議題 4) 理事の交代について

昇専務理事から資料に基づき、理事の交代について説明があった。富田稔理事 (N 系全国選挙理事) 辞任に伴い、選挙規則に基づき小池祐司氏が次点繰り上げにより理

事に就任。また、谷貢理事（J系中国水域理事）辞任に伴い、馬場正彦氏が理事に就任するとの発言があった。

承認された。

## 議題5) その他

河野副会長から、2月14日児童買春・児童ポルノ禁止法違反の疑いで逮捕された前地達郎氏（JSAF オリンピック特別委員会委員、指導・評価委員会副委員長、ウィンドサーフィン級担当コーチ）について報告と謝罪があった。

昇専務理事から、2016年オリンピック招致について説明があった。

東京都ヨット連盟田中評議員から、バッチテストの改善について更新制度の導入を検討いただきたい旨、書面での質問があった。

日本ヨットクラブ連盟中瀬評議員から、特別加盟団体からの評議員選出方法と「OOAKR」復活について検討いただきたい旨、書面での質問があった。

日本スイング協会澤村評議員から、ヨット界底辺の拡大対策、会報誌「J-Sailing」への取り組み方法、国体少年種目にSS級採用に関する弊害の対応策について、書面での質問があった。

高体連澁谷評議員から、国体少年男女種目にSS級採用に関する件は高体連として抗議を重ねてきた。秋田国体からSS級のみでレースをすることが提案され通知があったようだが、高体連としては、各県セーリング（ヨット）連盟および各県体育協会に対し、引き続きFJ級の使用を働きかけるとの書面での報告があった。

## 加盟団体・特別加盟団体からの報告

### その他（質疑応答・意見交換）

各加盟団体（県連）から、各団体の財政事情を調査していただきたい。また、指導者不足問題の意見が多数あった。

日本スイング協会澤村評議員から、JSAFWeb上のメンバー登録方法と平成18年度メンバー資格について質問があった。

東京都ヨット連盟田中評議員から、連盟理事職と連盟委員会委員長職との兼任は、将来改善していただきたいとの要望があった。

京都セーリング連盟岩崎評議員から、指定管理者制度におけるNPO法人化の具体的な内容について質問があった。

外洋東関東横田評議員から、ERS適用についてメジャラーの条件を明示していただきたい旨、提案があった。

日本スイング協会澤村評議員から、クラス協会の計測業務は現状の運営で問題がないかとの質問があった。

以 上

本日の評議員会の議題は上記の通り議決承認されたので、議事録署名人は記名捺印する。

平成 18 年 3 月 19 日

議 長 浪川 宏

議事録署名人 野崎 喜一郎

議事録署名人 小林 昇